

ふれ愛にしうち



第9号

太田西ノ内病院広報誌・第9号

発行/財太田綜合病院附属太田西ノ内病院

編集/太田西ノ内病院広報委員会

発行日/平成14年8月

住所/郡山市西ノ内2丁目5番20号 TEL (024) 925-1188

ホームページ: <http://www.ohta-hp.or.jp/>

暑中お見舞い
申し上げます



診療科紹介

皮膚科

「私は医者にかかったことがない。」という方でも、一度は、何らかの皮膚疾患にかかったことがあると思います。自分の目で病気の状態を確認できるという点で他の科と異なっています。患者さん自身が病名を予想できる事もありますし、市販薬や、民間療法で治した事のある方も多いかと思いますが。そのような点では身近な分野の病気といえるかもしれません。

診断は皮膚を見ることから始まります。皮疹が、どの部位に、どのような形で分布しているのかを見ます。問診も大切です。職業、住居、ペットなど生活歴に始まり、どこに行ったか、何を食べたか、何に触れたか、など詳しく尋ね、診断を考えます。また、必要があれば、検査を行います。血液検査や、皮膚生検（局所麻酔をして皮膚を一部採取する）、微生物検査（水虫など）、パッチテストなどのアレルギー検査、光線過敏をみるための光線検査などがあります。

皮膚疾患といえば、湿疹、かぶれ、やけど、蕁麻疹、水虫、アトピー性皮膚炎、などを連想するかと思いますが、実際には細かく分類されていて、この他にも、まだまだたくさんあります。耳慣れない病気の説明の際には写真やパンフレットを使用し、理解を深めていただいております。治療は、外用療法（薬を塗る）、全身

療法（内服や点滴）、手術、理学療法（光線療法、凍結療法、放射線療法）等があります。ステロイド剤は、炎症、かゆみを抑える薬で、外用、内服ともに皮膚科では多く用いられています。時々、副作用を心配する方がおられますが、使用する部位や皮疹の状態に応じて、薬の強さを調節して対応していると説明しております。また、早期に治療を終了できる疾患もありますが、経過が長いものも少なくありません。このため「治らない」の訴えをしばしば耳にします。患者さんには「治療により症状を軽快させて、より良い状態を保つ事が大切である。」と説明しています。

業務は、外来診療、病棟診療、手術、病棟往診に分けられ、菊池医師と私（折笠）の2人でこなしています。外来は月、水、金曜日は福島医大からの出張医の応援を借りて行っています。外来は、一般診療が中心で、火、木曜日の午後には手術や特殊治療、軟膏処置などを行っています。外来で多い疾患は、湿疹、蕁麻疹、白癬（水虫）、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹（つづらこ）、中毒疹、尋常性乾癬、などです。また、季節で流行する疾患があり、夏は、伝染性膿痂疹（とびひ）、伝染性軟属腫（水イボ）、日光皮膚炎（日焼け）、虫刺症性皮膚炎（虫刺され）など、冬は、乾皮症（乾燥肌）の患者さ

んで混み合います。入院となる疾患は、帯状疱疹、麻疹（はしか）、水痘（みずぼうそう）などのウィルス感染症や、蜂巣炎、丹毒などの細菌感染症、自己免疫性水疱症（全身に水疱ができる）、アトピー性皮膚炎、中毒疹、皮膚腫瘍などがあげられます。

皮膚症状は、他科疾患の症状の一つとして出現することもあるので、他科からの紹介患者さんが多いのも特徴です。

皮膚疾患は、時に、誤った治療で悪化すること

があります。受診を躊躇し、病気が進行、重症化するものもあります。（陰部の病気の患者さんなどは恥ずかしさのため長年受診できなかったというケースも結構あります。）また、ほくろの一部には、経過中に形が変わり、なかには放置してはいけないうものもあります。このように、気になる皮膚症状がある場合には、気軽に受診していただけたらと思います。私達も患者さんが気持ちよく診察を受けられるよう努めていきたいと思っております。（折笠玲子）



折笠玲子（前列左）菊池智（前列右）とスタッフ



西ノ内見聞録

ここでは、西ノ内病院の各病棟・外来・その他さまざまな部署に潜入し、その全容にせまってみたいと思います。

4階C病棟

笑顔で元気に



4階C病棟（産婦人科）スタッフ

皆様、こんにちは。4—C（産婦人科）病棟です。ここには、妊・産・褥婦、新生児、そして婦人科疾患を持つ患者さんが入院されております。まさに女性の一生に関わる病棟です。元気な赤ちゃんを産むために、無事出産してこれからの育児に自信がもてるように、手術を受けて一日も早く家庭や社会に復帰するため、と患者さんの目的はさまざまです。私たちスタッフは、患者さんとの対話を大切に、その人のおかれている状況を考慮しながら生活全体をみていくような心がけております。看護スタッフは35名、外来と病棟を担当しております。美人はいませんが、笑顔と声の大きさはとびき

りです。とにかく皆元気、元気。患者さんにパワーを送っています。

当院での分娩数は、過去4年連続年間1000件を超えており、少子化と吹く風です。また、本年度から、は地域周産期母子医療センターにも指定され、役割も大きくなってきました。「次もここで産みたい」と言っていただけのように、妊娠から退院まで「ひまわりクラブ」や電話での相談も受けております。入院期間が短く、手術や分娩と、日々の業務は多岐にわたり複雑ですが、患者さんに安全と安心を保障し、丁寧で納得していただける看護をモットーに、全員力を合わせて取り組んでおります。

今後もスタッフ一人一人が研鑽を積んで、より良いチームワークと確実で高度な技術を提供できるよう、そして何より、患者さんに「ここにきてよかった」と思っているだけ、努力してまいります。ちよつぱ

り心が疲れた時には、是非4—Cにいらして下さい。可愛い赤ちゃんたちが皆さんを癒してくれることでしょう。

（増子孝子）



新生児室

小児科外来

やさしい心と笑顔で



小児科外来スタッフ

小児科外来は、小児科と小児外科に分かれて2階の耳鼻科の隣にあります。小児科は一般診療の他に専門外来として、アレルギー外来、内分泌外来、心臓外来、血液外来、腎臓外来、神経外来、肝臓外来があります。

担当する医師は、アレルギー外来に生井部長が入りますが、その他は大学病院とその関連病院から専門医師がおいでになります。又、予防接種や乳児検診、未熟児で生まれた患児のフォローアップ外来もあり、それぞれ予約制になっています。

小児外科は小児の腹部外科を主とした診療科であり、日令1日目でも遠方から手術目的で紹介されてきます。

内科、外科共に対象年齢の幅が広く、生後1ヶ月の赤ちゃんから20才代後半の患者さんが、専門的な治療を受けられています。

在宅医療患者さんなどの場合は、時間を予約し、薬や医療材料がすぐ持参していただけるように準備して置きます。

疾患の中には寝たきり治療中の子供さんや、生下時直後から在宅IVHを受けているお子さんも通院されていて、長期に渡り病気に闘っています。そのため、患者さんはもちろん家族の精神的、肉体的苦痛は計り知れないものがあります。

私達スタッフ一同は、患者さんの負担を少しでも軽減してあげられるよう、個々のニーズに合った援助と精神的サポートができるように心がけております。

これからは西ノ内病院小児科の特徴を生かし、患者さんに満足していただける看護をめざして努力していきたいと思っております。

（光岡ケイ子）

くすりの広場⑨

「治験事務局」の仕事



比較的少数数の患者さんについて、本当に病気を治す効果があるのか、どのような効き方をするのか、副作用はどの程度か、どの程度の量や使い方をしたらよいかなどを調べます。

臨床第三相試験…より多くの患者さんについて、有効性や危険性を最終的に確認し、適応範囲や標準的な使い方などを確定します。この場合、現在使われている標準的な「薬」と比較して評価するのが普通ですが、標準的な「薬」がないときにはプラセボ（外見は本物と変わりませんが有効成分が入っていないもの）と比較する場合もあります。

くすりは多くの「薬の卵（候補）」について、効き目と安全性が調べられ、人々の命や健康に役立つことが証明された物だけが国から「薬」として認められ、世にでるようになります。「薬の卵」が見いだされてから、実際の医療現場で患者さんに使われるようになるまでには、様々な試験にパスしなければなりません。その試験にパスしたもので、すぐに人に使用できるものではありません。人での効き目や安全性を調べなければなりません。この試験を「臨床試験」と言い、その中でも国から「薬」として認めもらうために行う臨床試験を「治験」と言います。「治験」は、通常次のステップを踏んで進められます。

臨床第一相試験…少数数の健康な成人協力者（「薬の候補」の種類によっては患者さんの場合もあります）に対して、ごく少量から少しずつ「薬の候補」の投与量を増やしていき、危険性を調べ「薬の候補」がどれくらい体内に吸収され、どれくらいの時間でどのように体外に排泄されるか調べます。

臨床第二相試験…効果が期待される、

比較試験は公平で（例えば、一方に重症の患者さんが多く、他方に軽症の患者さんが少ないといったアンバランスがないこと）、しかも客観的な方法によらなければならない。また担当する医師や患者さんの先入観が入らないように、医師も患者さんのいずれにも、標準的な「薬」と「薬の候補」のどちらの薬が使われているか判らないようにする方法（二重盲検法と呼ばれています）がとられることが少なくありません。以上この三つのステップを終了し、国（厚生労働省）の専門部会などの審査を受け、許可を受けて初めて「薬の候補」が「薬」になるのです。この「治験」を当法人で行うのにお手伝いしているのが「治験事務局」です。スタッフ4名が兼務しております。最近では「薬」だけでなく「医療機器」「臨床試験」のお手伝いも行っております。

（橋本正枝）

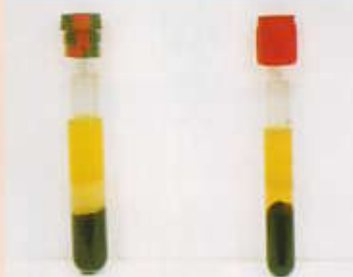


検査あらがると

採血管シリーズ—7

今回は赤色キャップで実施する検査について紹介します。この採血管は主に輸血検査で使用されます。特徴としては、他の採血管で見られる分離剤というものが入っていないことです。この分離剤は採血した血液を遠心してできる血清と血球成分の中間に存在し、血清を取り出し易くする役目をしています。

多量に出血した場合、体内を循環している血液量が不足するため、血液を輸血することによってそれを補っています。その際、その人に輸血してもよい血液かどうかを調べるのが輸血検査です。代表的な検査項目には、A型・B型・O型・AB型の血液型があります。輸血をする時は自分と同じ血液型でなければならぬことは、皆様よくご存じのことと思いますが、実はこの血液型（抗原）は血球（赤血球）に発現しています。ですから通常の検査では使われない血球成分も、輸血検査においては重要な役割を果たしています。



左側採血管中央部にみえる半透明のものが分離剤です



ています。血清では抗体について調べています。血清のなかには各々の血液型によって、決まった種類の抗体が存在しています。抗体は自分と違う血液型の血液が体内に入ってきたときに、それを破壊してしまおう力を持っています。ABOの血液型は抗原と抗体の両者が確認されてはじめて決定されるのです。

以上のようなことで血液検査では、血清と血球成分を同時に使うことのできる採血管が望ましいのです。また、新聞などで自分と違う血液型の輸血を受けたことによっておきた死亡記事を目にすることがありますが、これはこのようなメカニズムによるものです。

（作間靖子）

総合リハビリテーション センターを開設

当院では現在施設の整備を行っておりますが、既存のリハビリテーション・物理療場の場所を2号館・2階（旧1病棟跡）に移転し、「総合リハビリテーションセンター」として開設しました。

従来は、理学療法士、マッサージ師でリハビリテーションを構成していましたが、新しいセンターでは、理学療法、作業療法、言語療法、物理療法を実施し、既にたくさんの方が利用しています。

「リハビリテーションⅡ」生活の再建と定義されるように、障害を軽減させるばかりではなく、障害を有しながら生活している方々を様々な面から支援できる体制を整えております。



さまざまな器具をそなえたリハビリテーションセンター



【材料】（2人分）

すいか（皮なし）	100g
プレーンヨーグルト	160g
ハチミツ 大さじ	2杯
ミントの葉	2枚
（一人分）	110kcal

【作り方】

- ① ボールにすいかの絞り汁とヨーグルト、ハチミツを入れ混ぜる
- ② ①の液をバットに入れ、冷凍庫で途中まで凍らせ、バットを取り出し、スプーンでかき混ぜ再度冷凍庫に入れる。これを2〜3回繰り返しシャーベット状にする。
- ③ 器に盛り付け、ミントの葉を飾る。

すいかは90%以上が水分なので、あまり栄養がないと思われがちですが、糖質やカリウムなどの栄養素が含まれています。カリウムは尿と一緒に余分なナトリウムの排泄を促す働きがあるので、高血圧や動脈硬化の予防に効果があります。

又、カリウムは、筋肉でエネルギーの生産を助ける働きもあります。カリウムが不足すると筋肉の働きが悪くなり、倦怠感や食欲不振をひきおこします。夏は大量の汗と一緒にカリウムが失われ、低カリウム血症をおこし、夏バテの原因になる事も多いようです。今回は夏バテ防止に効果のあるカリウムの多いすいかと、ヨーグルトを使った「すいかのシャーベット」を御紹介致します。材料を混ぜて凍らせるだけで、簡単に作れますので、ぜひチャレンジしてみてください。

すいかのシャーベット



彩
食
健
美



緑ヶ丘こどもクリニック



根本医院



矢内クリニック



オープンシステム 情報ネットワーク

太田西ノ内病院では、患者さんに質の高い医療を受けていただくために、開業医の先生方と連携をむすんでいます。ここでは、太田西ノ内病院オープンシステムの登録医療機関、登録医師のご紹介をしていきます。

根本医院

所在地 / 〒963-1246

郡山市田村町谷田川字北表45

電話 / 024-955-3113

FAX / 024-955-3694

診療科 / 内科一般

休診日 / 祝祭日

診療時間 /

平日 午前 9:00~12:00

午後 3:30~ 6:00

土曜日 午前 9:00~12:00

病床数 / なし

往診・訪問診療 / あり



副院長 吉澤 太郎

平成4年 大阪市立大学医学部卒 同第二内科
平成8年 太田西ノ内病院消化器科
平成9年より根本医院



院長 根本 久高

昭和62年 滋賀科大学卒業
昭和62年 同第一内科入局（循環器科）
昭和63年 太田西ノ内病院勤務



根本先生（後列右から2人目） 吉澤先生（後列右から4人目）とスタッフのみなさん

根本医院は明治45年に私の祖父が今の場所ではじめました。私は平成四年に父の跡を継ぎました。当医院は山間地にあり、近隣に医院が少ないため、ありとあらゆる疾患の方が来院されます。そのためには消化器、循環器、呼吸器、小児科から皮膚科に至るまで幅広く対応しております。またこの地域は早くから少子高齢化が進んでおり、当初よりターミナルケアも含めた在宅医療に力を入れております。そう言う訳で、当院にとって病院や他の診療所との連携は絶対不可欠です。平成9年より吉澤医師が我がチームに加わり在宅患者さんの24時間対応が可能になりました。

登録医から



緑ヶ丘こどもクリニック

所在地/〒963-0702

郡山市緑ヶ丘東3丁目1-3

電話/024-956-6006

FAX/024-956-6006

診療科/小児科

休診日/日曜日・祝日

診療時間/月～金曜日

午前 9:00～12:30

午後 2:00～ 6:00

土曜日 午前 9:00～12:30

病床数/なし

往診・訪問診療/なし



田村忠久先生とスタッフのみなさん



院長 田村 忠久

昭和57年

昭和63年

平成4年

平成8年

山形大医学部卒業

同年、群馬小児科教室入局

南東北病院小児科勤務

星総合病院星ヶ丘病院

てんかんセンター勤務

診療の面では、一般的な小児科疾患の診療のみならず、予防接種、乳幼児検診などの、子育てのお手伝いにも力を入れております。急激な核家族化、少子化が進んでいる現在であるからこそ、この分野をさらに充実させなければならぬと考えている次第です。今後は、より高度な検査や医療、また、救急診療などが重要になってまいります。地域の基幹病院である太田西ノ内病院にお世話になることも増えてまいります。また、何かとご無理をお願い申し上げることも多くなることと思っておりますが、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

当院は、平成8年9月に郡山市緑ヶ丘（東部ニュータウン）に開院し、今年で6年を経過いたしました。開院当時は、郡山市立美術館の奥は住宅もまばらで、さびしい山の中という風情でしたが、現在では、住宅も増え、やっと街らしくなっております。太田西ノ内病院の小児科、小児外来をはじめ、多くの先生方には、開院当初から大変お世話になってきております。また、その都度、親切な対応や丁寧なご返事をいただいております。この場をお借りして感謝を申し上げます。

登録医から

矢内クリニック

所在地/〒963-0702

郡山市緑ヶ丘東3丁目1-4

電話/024-942-0871

FAX/024-942-0875

診療科/内科・胃腸科・外科・肛門科

休診日/木曜・土曜日午後、日曜・祝祭日

診療時間/月～水・金曜日

午前 9:00～12:00

午後 2:00～ 7:00

木・土曜日

午前 9:00～12:00

病床数/なし

往診・訪問診療/あり



矢内康一先生とスタッフのみなさん



院長 矢内 康一

昭和57年

昭和60年

平成8年

平成10年

金沢医科大学卒業

福島県立医科大学医学部第一外科入局

以後、日本外科学会及び日本消化器

外科学会認定医・医学博士修得

総合南東北病院外科勤務

今後とも、私は当院に来院される患者さんのために最大限の努力をしていきたいと思っております。そのためには開放型病院との連携は欠かせません。また、今日の医療情勢の影響もあり、患者さん自身にも受診する医療機関の選択意識が高まっているようにも感じます。患者さんには当院のような小規模の診療所のメリット、また太田西ノ内病院のような大病院のメリットを十分理解して頂き、必要に応じ、迅速な診療連携を行い適切な専門医療を提供する事によって、さらなる安心感を与える事ができると思っております。これからも太田西ノ内病院の諸先生方・スタッフの方々に多くのお世話になると思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

当院は平成10年7月、緑ヶ丘東部ニュータウンのほぼ中央に開業し、まもなく4年目を過ぎようとしております。私は消化器系を中心に診療しておりますが、土地柄が、受診する患者さんの年齢層も幅広く、様々な疾患で当院を受診され、特にブライマリアケアの重要性を再認識しております。当然、なかには診断・治療に特別な専門医療を要する患者さんもあり、そのような時、太田西ノ内病院の先生・スタッフの方々に何時も迅速・丁寧に対応して頂き大変感謝しております。ところで、開放型病院である太田西ノ内病院に当院の患者さんを紹介させていただくと、立派な施設で、多くの専門医の先生方に診療して頂くことができ、患者さんからは大変感謝されております。また、大病院の患者さんは、私どもが共同指導に出向くことにより、さらに安心してその後の治療に専念できるように思いました。一方で、当院からの紹介する患者さんは全て重症の方とは限りませんが、そのような時も外来の先生方には何時も丁寧に診察・説明して頂き、大変感謝しております。それまでの患者さんがそのように「先生！なんでもなかったよ。」と言って帰ってこられるのを診ると、なによりの喜びと思っております。

登録医から

★21世紀の申し子たち★

太田西ノ内病院で生まれた赤ちゃんを毎回紹介していきます。

質問

- ①生まれた時の感想
- ②名付けの理由
- ③子どもに願うこと
- ④ご両親の決意を一言

デ
ー
タ

さとう
佐藤 ななみちゃん

●平成14年7月22日
15時5分生まれ

●体重3290g

●父：佐藤 武司さん
母：佐藤久美子さん



デ
ー
タ

いとう なぎさ
伊藤 渚くん

●平成14年7月20日
10時10分生まれ

●体重3400g

●父：伊藤 純さん
母：伊藤 芳さん



ななみちゃんとお母さん

- ①元気に生まれてきてありがとうございますという気持ちで一杯でした。
- ②夏生まれなので、夏にちなんだ名前を考えました。
- ③明るく元気で、優しい子に育ってほしいです。
- ④この子のために頑張って、この子といっしょに成長していきたいです。



渚君とお母さん

- ①カワイイ！
- ②夏の似合う男の子になってほしい
- ③スポーツマン
- ④(夫) タバコを減らします。

編集後記



ジメジメした梅雨も終わりととうとう暑い夏が始まりました。夏の風物詩と言え、スイカ、水泳、花火、浴衣、セミの鳴き声、ひまわりの花……とい

ろいろいろありますが、その中のひとつにホテルがあります。最近そのホテルを見て疲れが癒されたことがありました。それは7月のある日のことでした。田舎に帰って風呂上がりに夜の散歩を楽しんでいると、田んぼに輝く数匹のホタルを見つけてきました。数は決して多くはなくむしろ少なかつたからこそよりいっそう榮えて目に映ったのかもしれない。そして風に流されながら微妙に変化するその光に感動してしまいました。心が洗われるというのはこう言う感覚なんだろうなと実感しました。小さな頃から当たり前のように見ていたものでも、しばらくたつてから見てみると深く感動するときもあることをあらためて知りました。皆さんもこの夏、何かに感動して疲れた体をいやして頑張りましょう。

(荒川 幸徳)

太田西ノ内病院広報委員会

委員 須田 秀一

小池 修・遠藤めぐみ

朝倉 俊成・後藤 桂子

松田美津子・荒川 幸徳

木原 均・久下 薫

佐藤 浩徳(幹事)